災害エスノグラフィー演習　体験談（ショート）

Bさんのケース

【基本情報】

年　　齢：69歳

居住地区：岡山県倉敷市真備地区

家族構成：奥様と二人暮らし

避難行動：立ち退き避難（岡田小学校から小学校へ）

自宅被害：全壊

住所地のハザードマップ上の危険：洪水による浸水５ｍ程度

避難行動要支援者の該当の有無：なし

7/5 18:30　岡山地方気象台が【大雨警報】を倉敷市に発表

19:40　岡山地方気象台が【洪水警報】を倉敷市に発表

家に帰ったのが夜の9時ぐらい。その頃はかなり水位が上がっていました。川も川も。家に帰りましてから、200メートルぐらい先に堤防があるのですが、その堤防に上がりまして、水の状況を確認に行ったんですね。夕方行くときよりも川も含めて水位が上がって来ていましたので、どこまで上がっているのかというのを確認するため、堤防まで見に行きました。本当に危険を感じるのか感じないのかということを目で確認しておこうと思いましてね。

川の水位を見たら、これはだいぶん上がっているなという、そこで初めてこのまま上がってきたら越水とか、氾濫とか、そういうこともありうるのかな、と少し感じました。だけど、これはすぐに逃げないといけないというところまではまだいかなかったです。その時点では。

そのあと、やっぱり、ひょっとしたらという川が氾濫するかもという話があったものですから、これは逃げる準備をしておいたほうが良いなと判断したわけです。

ちょうどその時、排水機場を運転している友達と会いまして、排水ポンプの能力をいっぱい上げてもなかなか捌ききれないと。「溜水のほうが多いから能力不足で、このまま雨が降り続いたら、ひょっとしてＢさんのところの団地が浸かるかもしれないよ」と言われたんです。今から42年前、昭和51年の台風のとき、排水機場ができる前ですが、床下の浸水をした経験がありまして、そういう情報を聞いたものですから、下手をすると、また床下、あるいは床上まで浸かるかもしれないなと思いまして、避難準備をしておいたほうが良いなと思いました。

だけど、本心では、そこまではあまり心配しなかった。いつもあることだなと思って。とりあえず逃げとったら明日は帰れるだろうというつもりで逃げたんです。念の為に逃げておこうと、そういう感じでしたね。

夜の９時半頃、家に帰って、隣近所に「こういう状況なので避難準備をしておきましょうよ」と声をかけて回りました。8軒か9軒ぐらいの小さな団地なのですが、日頃から見守り活動をしている3人の高齢者がおりまして、その人達の中で２人は災害時に何らかの支援が必要という方でしたので、その人達に早く知らせなければいけないと思って。また、その人達だけではなく、隣近所に住んでいる若い世帯もそういう経験が無いものですから、そういう情報を伝えてまわりました。

要支援者の方に声をかけたこと、高齢者の親戚にも電話をして助けていただいたことは、良かったなと感じます。災害があった後、皆さんと顔を合わせて、「お互いに無事で良かったね」という話の中で、「あの時、Ｂさんから声をかけられなかったら私達は何も思わずに寝ていました」と言われたんですよ。何か危険を感じた人は、隣近所を含めて情報を伝えないと何も気が付かない人もいるし、放送があったとしても耳が遠くて聞こえない人もいますし。声がけの大切さ。それと、声をかけられたら素直に聞くという、そういう人間関係、コミュニティの大切さというのをつくづく実感しました。

22:00 倉敷市が【避難勧告】発令 真備地区全域（洪水警戒）

夜10時過ぎには、避難勧告（洪水警戒）の発表を知らせる広報車が通って来ました。これはやっぱり避難したほうが良いなという判断をしまして、もう一度、隣近所の皆さんに、「避難勧告が出たから避難しましょう。避難先は3つの小学校が指定避難所になっているから、自分が知っている一番良いところに避難してください」という声かけをしまして、皆さんに避難していただきました。

あとで自宅を見に行ったら、決壊箇所が自宅のすぐ近くだったので、うちのブロック塀も傾いていました。決壊したとき、消防の人が警戒のために巡回しようとしていたらしいのですが、「津波が押し寄せてくるような感じで水が向こうから流れてきたのでびっくりして慌てて引き返した」と言っていました。水は相当な勢いで来てます。道路側も決壊していますし、倉庫なんかもものすごく流されていますし。避難が遅れていたら危なかった。

避難する際にも要支援者の方に声をかけましたが、一人の方は、息子が高台にいるから息子に来てもらって、息子の所に行きますと。一人は残ると言ったけれども、「私と一緒に逃げましょう」といいました。もう夜だったものですから、私と一緒に行こうということで車に乗せていったんです。玄関まで迎えに行って、一緒に乗ってもらいました。いつも車で送り迎えをしているわけではないですが、数年前の避難のときにも「よかったら一緒に行きませんか」と言ったら、「お願いします」と言うから、「一緒に行こう」と。もう、思いつきというか、念のために声がけをしました。

それからもうひとりの90歳のおばあさんにつきましては、緊急連絡先の親戚の方に電話をしまして、「避難準備をしているけれども迎えに来てくれませんか？だめだったら私が一緒に連れて行きますよ」というお願いをしました。すると「わかりました。すぐに迎えに行きます」ということでしたので、親戚の方に託しました。

災害のときは、支援を受ける人も、遠慮をしないで「頼むね」という意識になってもらわないといけないんですよ。ついつい「私は身体が不自由で動けないから皆に迷惑かけるから避難しなくてもいいや」とか、「避難所に行ってもかえって皆に迷惑かけるから家に残るわ」とか、それで亡くなられた方もいるわけですよ。ですから、「そんなこと言わないで、一緒に逃げようね」という支援者はそう言って、支援される人は「頼むね」って「こんな身体だけどよろしくね」と言えるぐらいの人間関係を、日頃からつくっておかないといけないので、そういうことを私は皆さんに口酸っぱく言っていきたいと思う。皆さんつい遠慮するんです。

小地域ケア会議などの見守り活動をすることで、月に一回位しか行きませんが、定期的に行って、「元気にしていますか？最近身体の調子はどうですか？困っていることはありませんか？」とかそんな話をしに行くと、自然に顔見知りになりますし、「今日は病院に行ってきたのよ」とか「最近ここが痛くてね」とかいう話が自然にできるようになってくるんですよ。やはり、顔を合わせて話をするというのが自然に人間関係を作るきっかけになるんだなと思いました。

そういうわけで、私は妻と高齢者の方と、10時半過ぎに避難を開始しました。避難先は、土地勘のある岡田小学校に最初に向かいました。

22:40　岡山地方気象台が【特別警報（大雨）】を倉敷市に発表

学校に着いたら、もういっぱいで入れないので、小学校にまわってくれと言われて、ぐるっと回って、小学校に避難をしました。着いたのが11時半ぐらいでした。まっすぐ行けば10分か15分で着くのですが、迂回したことや避難する車で渋滞していたので1時間もかかりました。

最初に岡田小学校に行ったのは、近所の人と、「どこに行く？」と言ったら、私より少し上の人が、「岡田小学校に行きます」と言ったので、私も一緒に行こうかということで。道も知ってたから。川を横切って橋を渡っていくわけですけれども、まだその当時そんなに危険性を感じていませんし、道路も浸かっていませんから。

それで、15分程度で岡田小学校の近くまでは行けたのですが、あと1キロ程度のところで渋滞していて、だいぶ時間がかかってやっと着いたんですけど、そこがいっぱいで。それで小学校にということで回って行ったんですけど。途中だいぶん渋滞しました。夜の11時以降ですね。道路が渋滞していてなかなかたどり着けませんでした。

ようやく小学校についた時には、11時半になっていました。約1時間かかりました。

23:45【避難指示（緊急）】発令　川南側の真備地区（洪水警戒）

小学校に向かったのは、指定避難所になっていますし、岡田がだめだったらに回ってくれということで、に行くしかなかったんです。ただ、その道はあまり通ったことが無くて。普段通らないので、どの道を通ったら小学校に行けるのかと迷いながら。大きな通りに出ればわかるのですが、畑道とか農道のようなところをまわりながら行ったので、そういう道は普段通りませんので、どの道を通ったら大きな道に行くのかというのが、夜でしたし、わかりませんでした。

以　　　上